

湧 愛

YOU & I

編集：安曇野市男女共同参画広報紙編集委員会
 発行：安曇野市・安曇野市男女共同参画推進会議
 事務局：安曇野市総務部人権男女共同参画課
 TEL：(0263) 71-2406
 FAX：(0263) 71-5155

～知っておきたい 様々な災害から 家族を守る方法～

「安曇野市男女共同参画講座」 開催

平成27年12月21日(月)本庁舎大会議室において長野県と共催による「安曇野市男女共同参画講座」を開催しました。静岡大学教育学部教授の池田恵子先生をお招きし、災害から家庭・地域を守る方法について講演をいただき、区長・公民館長はじめ多くの方々が参加されました。



池田恵子先生

講演会

講師の池田先生は、「災害時に自分と家族を守る～家庭・地域からできること～」をテーマに、東日本大震災以降、災害復興支援と男女共同参画に関する調査・研究に従事してきた経験をお話されました。

避難所の運営にあたっては、生活の環境(着替え、授乳、介護用品、生理用品等)を見極めた物資の配分方法や、心身の状態に問題のある方、女性・子ども・若者・高齢者・障がいを持った方等の多様な立場の方の意見を踏まえるため、運営組織の役員は男女両方から選ぶ必要がある。特に女性については、自治防災組織の企画運営に参画すべきであると示唆されました。

また、女性及び子育て家庭の意見・ニーズを把握し、避難所の食事づくりは男女問わず分担するべきである。個室やパーテーション等を活用してプライバシーを確保したスペースづくりや健康相談、メンタルケアのあり方とその重要性などを述べられました。

平常時から、男女それぞれの視点に立った避難所の開設や、運営のあり方を地域防災計画やマニュアルに記載する。そして、住民による組織を作り、訓練を通して災害時の避難所の開設、運営が円滑にできるようにしておく事が非常に大切であると強調されました。

東日本大震災以降も、長野県では多くの災害に見舞われましたが、今回の講演会は私達一人ひとりが、それぞれの立場で災害に対しどのように備え、何をしなければいけないのか考える機会となりました。



会場の様子

参加者の感想・意見(アンケートより)

- ・避難所の精神的面がよく分かった。関連死は避難所での疲労が原因(65%)にはびっくりした。
- ・防災に関連して、避難所の在り方・運営の具体的なケースについて「どうしていますか?」という質問を行い、考察する方法で「実際の場でどうすれば良いか」を検討したこと。当事者となることは少ないからこそ、こうしたことを考えることが大切だと思いました。
- ・女性の視点が必要である。(グループの行動・在宅避難の人達への連携民生委員の活動支援・役割分担等)
- ・男女共同参画という言葉や組織が必要ない社会になってほしい。



防災グッズの展示も行いました

自分らしく生きる (ワーク・ライフ・バランス)

社会構造の変化により、男女が共に働く社会となってきました。仕事と生活の双方の調和を保つことが、強く求められています。

人それぞれに、現在のライフステージの中でどんな生活をし、思いを抱いているのでしょうか。市民3人の方にお聞きしてみました。

「仕事と家庭を両立し、働きたい」Nさん

最近安曇野市に引っ越してきたNさん(30代)。仕事と家庭を両立して働きたいと願っていますが、不安もあるようです。

Q 4月から職場に復帰するそうですが、不安なことはありますか？

A 勤務会社は正社員で働き続けられるので、仕事と家庭を両立し働き続けます。ただ職場が大変遠く、2児を保育園に預けての勤務、万一子どもたちが病気になった時などを想定すると不安になります。

Q 夫にお願いしたいことはありますか？

A 夫は違う会社勤務ですが、第1子の時にはなかなか子どものために休暇や早引きなどを申し出ることはありませんでした。多分自分が休むと、会社の同僚にその分負担がかかると思い二の足を踏んでいたのでしょうか。昇進ルート離脱の不安もあるかもしれません。

でも、これから夫にはいわゆるイクメンとして状況に応じて会社にお休みを申し出て欲しいと伝えました。最初は戸惑いや非難を招くかもしれないが、勇気を持って行動して後進のためにも道を開いて欲しい。

Q 夫が育児に関われる環境をつくるために、どんなことが大事だと思いますか？

A 雇用者側の理解が大切ですが、社員も切実な思いを伝えるべきです。時代の要請です。夫婦が定年まで正社員で働けるように、ぜひ社会全体が子育て中の夫婦のワーク・ライフ・バランスに理解を示してください。それが少子化に歯止めをかけ、女性が元気に働いて活気ある社会の持続に繋がると考えます。



「夫の父母の介護にあけくれている」Oさん

高齢者2人(夫の父95歳、母93歳)の介護に明け暮れているOさん(50代)。なかなか家を空けることができない状況の中で、「夫が家に居るから今なら」とインタビューに応じていただきました。

Q 現在、ご両親の様子、介護について話していただけますか？

A とても2人を介護はできないので父はショートステイの施設に。しかし、一定期間が過ぎると1ヶ月位は次に入る迄家に帰ります。上手に歩行ができないので常に手をかけ、食事はおかゆ、他のものは全て細かく切ります。

母は、少しなら歩行も可能でトイレや食事は皆と同じに自分でできます。認知症もあるけれど徘徊がないので助かっています。週に1回はデイサービスに行くので、唯一その時が自分の時間になりますが、家事は山積しているのが現状です。

Q 認知症患者の徘徊による事故が増加傾向にあると言いますが、徘徊による列車事故の問題で、最高裁の「家族が賠償責任を負わない」とする司法判断をどう思いますか？

A 私のように介護者にとってはありがたいことだとは思いますが、介護する立場には多くの不安もあるので現状をふまえた新たな制度をしっかり作ってほしいと思います。

“明日は我が身” そう遠くはない私自身の未来と重なります。近い将来は施設ではなく在宅介護になる方向で・・・そんな言葉も耳にしますが、介護がどんなに大変なことなのか、身を持って体験した人でなければわかりません。

「趣味を活かして元気に生活している」 Sさん

御年86歳になられるSさん。日々生き生きしている生活の姿に何か秘密があるのでしょうか。

Q (茶道教室終了後)午後はどこにお出かけですか？

A 午後から地元の老人クラブの役員会に行きます。

Q 若い時からどんな地域活動をされてきたのですか？

A 自分の地区公民館の文化祭には抹茶を振舞い、保育園年長組を対象に抹茶の頂き方、礼儀作法等を教えたり、地元氏神様へ献茶の振舞い、特養老人ホームでのおむつたみボランティア、仲間と豆腐作り・味噌づくり・麴づくりをしたり等々、元気に参加しています。対外的には他教室と1年交代で、穂高、豊科の文化祭と国営アルプスあづみの公園では毎年5月～10月迄、月に1回抹茶席を持ち市民の皆さんに喜んでいただいています。

Q 元気の源は何でしょうか？

A 長年茶道を生きがいとし、地域とのかかわりを持ちながら元気に過ごしています。家庭菜園の世話と他人の中に出て、会話を楽しみ、適度な緊張感こそが元気の源になっているのだと感じます。



3人の方それぞれに、今おかれている環境の中で、「仕事を続けたい」「自分らしく生きたい」、また、「介護者の悩みに応えるべく、介護支援、制度の充実を」「老後においても、家庭や地域の中で自分らしく生活していきたい」との思いを抱いていることがわかりました。

誰もが、ライフステージに応じた多様な生き方・働き方が選択できる社会、自分らしく生きる社会の実現に向けて、企業、地域、家庭、個人において、それぞれに創意工夫しながら、「できること」「できそうなこと」から取り組めたらと思います。

地域を照らす

「木工・手作りの楽しさを伝えるために」

野中由紀子 (58歳) 穂高地区

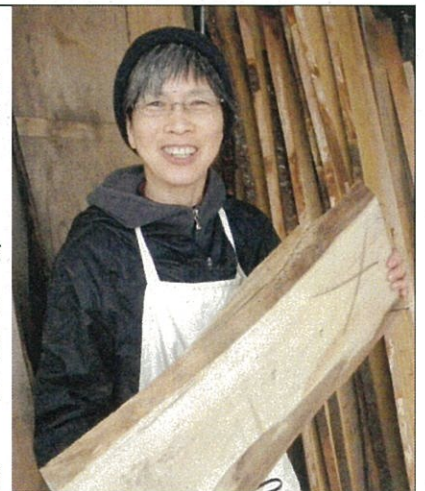
若き頃、家具作家を目指して職業訓練校を修了するも子育てに突入、その後安曇野に移住し、家具を作りながら子育て、親の介護、地域活動をしてきました。一方、経済的には苦しく、いくつものパートをこなしてきました。家族・創作活動・経済的基盤、この3つがタペストリー(※)のように私の人生を織り上げてきたのです。

誰もが自己実現を目指して暮らすためには、今後一層柔軟な形で仕事ができ、収入を得られることが不可欠です。一方で支出が抑えられることも重要です。保育料の軽減、子どもや老人の送迎等にも不可欠な車関係費用の軽減、奨学金の無利子化等々。まだまだ子育て世代を援助してほしいことは山ほどあります。

しかし、なにより今日までの活動を支えてくれたのは友人・知人たちです。情報交換、仕事の紹介、子どもの世話、楽しいイベント企画など本当に感謝しています。

子育て・介護を卒業、これからは後進の育成に努めようと動き始めています。木工・手作りの楽しさを伝えるために「安曇野クラフトゲート匠の杜」を国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区で開講。工芸作家たちの活動を広く知っていただくために穂高駅前通りに「クラフトショップ安曇野」を運営。地域の子どもたちに「ふるさと安曇野」を心に刻んでもらえるように餅つき、三九郎、マスつかみ大会、夏祭りなどを小学生の保護者たちと開催。若い世代を応援し続けたいと思っています。

※絵や模様を織り出したつづれ織り



事業報告

日本女性会議 2015 倉敷に参加

平成 27 年 10 月 9 日～11 日に岡山県倉敷市で日本女性会議が開催され、約 2,000 人の参加者とともに、講演会他、様々な分科会に参加しました。県外の方との交流で男女共同参画に対する思いが一段と強くなりました。



松本市女性団体連絡協議会と交流会

平成 27 年 11 月 6 日にパレア松本・女性センターにおいて、交流会を開催しました。和やかな雰囲気の中で、互いに抱える問題や苦勞、やりがいなど有意義な話し合いができました。



5 地域区長会長・公民館長との懇談会

平成 28 年 2 月 2 日と 9 日に市役所で懇談会を行いました。地域の女性の参画状況についての現状や問題点をうかがいながら、カルタやペーパークラフト(紙人形劇)を使って男女共同参画を各地域で活動する機会を要望しました。



明科と堀金で料理教室を開く

平成 28 年 1 月 16 日と 2 月 7 日に 2 地域で料理教室を行いました。食を通して誰もが簡単に家庭でも役立つ料理を異文化交流などを交え、楽しく学びました。また、多くの男性にも参加いただきました。



福祉というのは、社会や個人の大変幅広い分野に関係する言葉です。

とりわけ子育てや介護に関する会議や研修会など

で「ダブルケア」という言葉がよく出ます。これは育児と高齢者介護を同時に行う状態を簡単に表現した言葉ですが、この大変な状態を多くは女性が担っているのが実態です。

背景には、女性の晩婚や高齢出産・高齢者人口の増加・核家族・家族の少人数化等があるとされています。だからといって、苦勞のしわ寄せを女性だけが受け持つのは余りにも不平等です。

女性の肉体的・精神的な面だけでなく、職場を失うという不利益なこともあり、社会で活躍する機会を狭くしてしまいます。あくまでも、子育てや介護は「女性がやること」という意識を払拭し、男女が・家族が・社会が、みんなで対応しなければいけない問題です。

(編集室)

安曇野市男女共同参画カルタ

お互いに 認め合うのが 第一歩
ぬくもりの 中で子どもは すくすくと
何気ない その一言が 胸をさす

